

## 令和3年度第9回地方独立行政法人京都市立病院機構理事会 議事録（要旨）

- 日 時： 令和3年2月22日（火） 午前10時30分から11時45分まで
- 場 所： 市立病院北館7階ホール1
- 出席者： 理事長 黒田 啓史  
理 事 清水 恒広、岡野 創造、森 一樹、半場 江利子、松本 重雄、  
位高 光司、能見 伸八郎、山本 みどり、白須 正  
監 事 長谷川 佐喜男、中島 俊則  
事務局 折戸経営企画局次長、長谷川管理担当部長、菱田経営企画課長

### 1 開会

### 2 議題・報告事項

#### (1) 理事会休会期間におけるこの間の動き（新型コロナウイルス感染症関連）（報告事項）

参考資料に基づき、折戸経営企画局次長から説明

- 新型コロナの影響については、職員の子供の学校で休校が相次いでおり、自身の施設でも応援体制を組むことが一時困難となったが、市立病院ではどうか。  
→ 市立病院においても一時期は50名近くが濃厚接触などで出勤できなくなった。就業制限について厚労省が緩和の方針を打ち出したことから何とかやり繰りできたが、相当厳しい状況であった。
- 大阪などでは救急搬送の受入先が決まらないなど、大変な状況であったと聞いているが、市立病院ではどうか。  
→ 京都府内においても受入打診を何回も断られ、搬送先が見つからないといった事例が実際に起こっている。当院もいつでも受入可能なわけではなく、断り事例は発生しており、府内新型コロナ患者受入医療機関の病院長会議でも課題として挙がっている。
- ワクチン接種を2回以上受けていても新型コロナに罹患するのか。また、重症化についてどう見ているか。  
→ 実際にワクチン接種が2回済んでいる方でも罹患している。統計的には対象者の8割が2回接種を完了しており、市立病院の入院患者の中でも2回接種が済んでいる患者が多いと思う。重症化については、ワクチン接種者の方が未接種の患者よりも重症化していない印象である。
- 第6波の方が死亡率が高いと言っている人もいるが実際にはどうか。  
→ 高齢者施設でのクラスターの発生や、市中感染が広がる中で全員が入院できない影響はあると思う。ワクチンを接種していると比較的軽症で済むものの、高齢者かつ基礎疾患があることに加え、体重が少ないなど余力のない方は症状が急激に悪化することがあり、死亡率は分からないが重症化例は多くなっている印象である。

#### (2) 月次収支（12月）（報告事項）

資料1に基づき、折戸経営企画局次長から説明

- 京北病院の訪問看護の伸び率が令和元年度比で27.3%となっているが、どう分析しているか。  
→ 訪問看護管理者の営業努力によるところが大きいと考えている。患者の重症化もあるが、医療保険からの訪問看護を増やすべく日々努力した結果である。件数としては、医療保険によるものと介護保険によるものの合計値である。

- 主要指標である市立病院の病床利用率が低迷している。また平均在院日数も減っているがどう分析しているか。
- 病床利用率については、今年度は新型コロナ対応病床の確保に伴い、休止している病床もあるが、計算上は分母となる病床数に含まれている。このため、見かけ上の利用率が低くなっているが、実際にはベッドコントロールもしっかり行っており、休床分等を除けば、90%台の高い利用率をキープできている。
- 平均在院日数については、患者の状況を見た上で回転率を高めるなど、経営努力を進めた結果となっており、一般的に良いとされる10日前後に収まっている。
- 新型コロナの混乱の時期に診療報酬単価の上昇で他の悪い要素をカバーしており、好ましい方向に向いていると思う。市からの繰入金も収入できており、この調子で進めていって欲しい。また、うまく回っているのは院内で陽性者が発生しても、初期段階で抑えられているのが大きいと思う。
- クラスタを二度と起こさないという強い意志で取り組んでいる。今後も気を緩めることなく診療を継続していきたい。
- 今年度はコロナ対応補助金の収入もあり黒字を予想しているが、今後コロナが落ち着いた時に今の病床数を通常診療の患者で埋められるかが課題となると考えている。病床数の在り方については、ポストコロナを見据えて内部で議論しているところであり、いずれ理事会にも検討結果をお諮りしたい。

### (3) 令和3年度補正予算について（議案）

資料2に基づき、折戸経営企画局次長から提案  
議案のとおり承認された。

### (4) 令和4年度当初予算案骨子について（議案）

資料3に基づき、折戸経営企画局次長から提案  
議案のとおり承認された。

- 市立病院の資本的収支の収入として医療機器購入分が約16億円となっているが、どのような内訳か。
- 令和4年度は電子カルテシステムの更新年度であり、内訳としては約14億円と大部分を占めている。京北病院の増加分4,200万円も同様の理由によるものである。
- 予算案の策定に当たり、新型コロナの影響はどの程度見込んだのか。また、市立病院の臨時損益の内訳はどういったものか。
- 新型コロナは一定の沈静化を見込み、元々の感染症・結核病床である6B病棟20床で全て対応し、残りは通常診療に振り向けることを想定している。結果、コロナ対応は6B病棟のみとなり、休床分の補償は見込んでいない。
- 臨時損益については、機械の故障等の除却で毎年度発生するものである。
- 不確定要素が多く、正直予算を組むのは難しかった。来年度予算では本来の機能である6B病棟での対応に戻して運営することを想定しているが、今後の新型コロナの状況等も見ながら対応を考えていく。

### (5) その他

- 新型コロナはいずれインフルエンザ並みの扱いになるのか。
- 新型コロナは現状二類感染症の扱いなので原則入院が必要となる。開発中の内服薬が普及し、一般の診療所等で診られるようになればインフルエンザ同等の五類感染症に変更することも可能と思うが、現段階では無理があると思う。

→ オミクロン株を見ると感染力が強く、インフルエンザより強いかもしれない。発症数日前から感染力があるのも特徴で怖いところでもあり、まだまだ注意が必要である。クラスターの報道は減っているが、実際には数多く発生しており、次の波が来るかも見定めながら、扱い方を変えていく必要があると思う。

○ 新型コロナが流行し始めて足掛け2年となるが、職員の士気はどうか。

→ ストレスはあると思うが頑張ってくれている。こうした状況にも慣れてきていると思うが、長期にわたることで気分転換ができなくなっている。明るい職場づくりを心掛けるとともに、必要なフォローもしていきたい。

### 3 閉会